

東南アジア華人社会の伝統芸能

——農暦七・八・九月の祭祀と地方劇

尾上兼英

目次

- 一 調査の目的
- 二 シンガポールの中元節（以上本号）
- 三 シンガポールの齊天大聖聖誕 他
- 四 マレーシアの九皇爺法会
- 五 タイの宗祠
- 六 補記

(一) 調査の目的

東南アジアの華人社会についての研究は、多くの分野から進められている。「東南アジア学」というタームさえ学界で通用し、方法論が模索されている。（この場合は当然のことながら、華人以外の民族も対象となる）

ところで、東南アジアの開発に華僑がどのように貢献したかについては、陳育崧・陳荊和両教授、O・フランケ教

授、今堀誠二教授らが蒐集・整理された会館や廟・亭の碑文録に基づく研究によって明らかにされ、また日比野丈夫教授の「マラッカのチャイニーズ・カピタンの系譜」(『東南アジア研究』六一四)など、現地調査の業績が次々に発表されている。一九七九年には酒井忠夫教授を団長とする「東南アジア文化調査団」が、文部省の援助によって派遣され、会館関係の資料が博搜されたとのことであるが、これによって東南アジア華人の研究が飛躍的に発展することが期待される。

しかし、伝統的民間演芸がどのように保存され、娯楽に転化する以前の「酬神戯」としての性格がどのように維持され、同族・同郷・同業団体の結束にどのように役割をになっているかについての報告は、管見の及ぶ限りまだない。東南アジアの地方劇の実情については、シンガポールの南洋大学に所属する王忠林・皮述民・頼炎元・謝雲飛の四氏による『四大伝奇及東南亜華人地方戯』(南洋大学亜洲文化研究所一九七二刊)というすぐれた調査報告があるが、関心は荆叙記・白免記・拜月亭・殺狗記の四伝奇に限定して、シンガポール、マレーシア、タイ、台湾での公演の情況の調査にあり、華人社会の習俗との関連にはない。文芸を支え、維持発展をはかる集団との関連——とくに集団の結束をはかる祭祀、その他の行事との関係——という視点は欠落しており、説唱文学や地方劇の研究に、文献資料の不足という限界を打破して文学史を再構成したいと考える者にとっては、その点に不満が残るのである。

このような調査は、中国人が主体となって進められる方が、より効果は大きいと思われるが、遺憾ながら中国人社会では、文学における戯曲・小説の地位は依然として低く、我々の関心の持ち方について十分な理解が得られないことは、前回の報告(『東洋文化研究所紀要』第七十五冊)以後も変りはない。そこで、文学畑の他に、歴史学・民俗学・言語学等の専門家の協力を得て、本格的に調査を進めたいと願うに至った。幸にして「東南アジアに残存する華人社会

の民間演芸の調査・研究」に対して海外学術調査が認められ、文部省から科学研究費が与えられることになったので、香港・シンガポール・マレーシア・タイの現況と調査地点、時期の選定を中心課題として、一九七九年度は予備調査に当ることとした。調査は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の中嶋幹起氏と尾上の二人が当たった。

(一) シンガポールの中元節

農曆七月は中元節、孟蘭勝会の時期である。Festival of Hungry Ghost と英訳されるように、冥界にある孤魂の冥福を祈るとともに、故人となった祖先の慰霊が中心であり、その際「酬神戲」として演劇の奉納を伴うために、一か月にわたって各地、各集団によって行われる。——本来は農曆七月十五日をはさむ前後数日であるが、劇団の数が少いので同時に招聘することができず、長期にわたるのである。

香港の孟蘭勝会は潮僑(潮州出身の華僑)が主体であり、これに関しては前回の報告に示した日程表を訂正する必要がある、ほとんどないが、年によつて事情の変更があり、多少の変動は避けられない。シンガポールで得た情報によれば、劇団との契約は毎年更新されるが、金額が折合わぬ場合は、更新されない。その時には日程にも影響が出るという。香港の場合も同様であろう。また粵劇(広東系)惠州劇(福佬系)についてその後、知見を加えたことがあるが、これらの点に関しては、いずれ東洋文化研究所の同僚、田仲一成氏から詳しい報告がされる予定なので、田仲氏の参加しなかったシンガポール以後の予備調査に、この報告は限定したい。なお、この報告に関する調査では、中嶋氏が習得した広東語・福建語等の言語知識によつて、調査対象となった人との意志疎通に大きな役割を果たしたことを特記し

ておきたい。

調査のためシンガポールに到着したのは、中元節の後半であった。

シンガポールは、産業構造の近代化が推進されており、前回（一九七六年）の調査の際危惧したように、チャイナ・タウンの旧房屋の破壊が進行し、そのあとに高層の近代建築が建てられ、昔日の面影を失いつつある。政府の方針として、近代建築の住宅街へは旧居住区の住民の一括移転を認めず、各方言系の華人を混住させるとともに、インド人、マレー人も同一住宅街に集め、シンガポール人としての一体化をはかっているという。

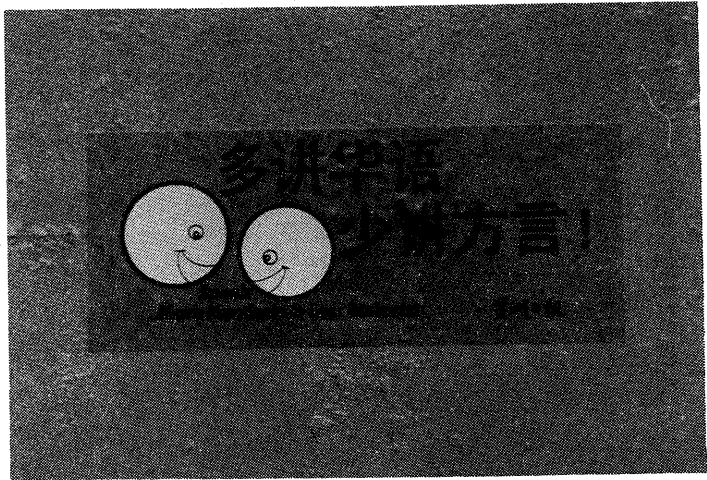
また華人の共通語としての「華語」の地位を高め、各方言を消滅させる方向で、一大キャンペーンがくり広げられている。これには新聞界から星洲日報、南洋商報、新明日報が協力し、小販（商店）新加坡巴士なども呼応して——管見の及ぶ所では、福州咖啡酒餐商工会、瓊州咖啡酒餐商工会、工業工聯、新加坡管理協会なども推進に協力してポスターに名を連ね、惠州会館も推進を議決し、宣伝隊を西部マレーシアの同郷会へ派遣している——標準中国語に中国人の話しことばを統一しようとする熱気が渦巻いているように見える。我々の経験でも、「あなたは、どの地方出身の華人ですか」と質問したのに対して、「我々は『多講華語』運動を推進しており、今や標準語を話すことに、すべての人が努力しています」と、商店主にたしなめられたりした。前回と同じ質問をして、「私はシンガポール人です」と答えられ、二世・三世というものについて考えさせられたが、今回は「連帯の証」である故郷の「ことば」が消滅することについて考えさせられた。やがて画一的な華人系シンガポール人となり、故郷の習俗が失われ、各方言による地方劇も衰頹する運命をたどるのであろうか。その徴候はすでに現われており、福建系の布袋戯が「華語」で演じら

れ——中峇魯 Tiong Bahru Rd. 農曆二十九日——また地方戯よりも、歌台の流行歌の方に人が集る(付表一 注3参照)という傾向が見られる。地方劇の最も熱心な観客は、年輩の婦人である。

孟蘭勝会の情況について、チャイナ・タウンの旧房屋の壁や柱に残る佈告を丹念に拾って、次のような結果を得た。(付表一 参照)

農曆七月一日—九日	九個所
同 十日—十九日	六個所
同 二十日—二十九日	二十個所
(但し、八月にわたるもの二個所を含む)	
同 八月一日—二日	二個所
日付不明のもの	一個所

もちろん、これがすべてではなく、近代建築に変貌した地域——Upper Circular Road から Upper Chin Chew Street に至る South Bridge Road の北側の地域と、Kreta Ayer の一部——及び現在破壊が進行している地域——再建のすんだ地域に隣接し、次年度に再開発が計画されている一帯は、家賃・地代が免除されているという——



「講華語」キャンペーンのポスター



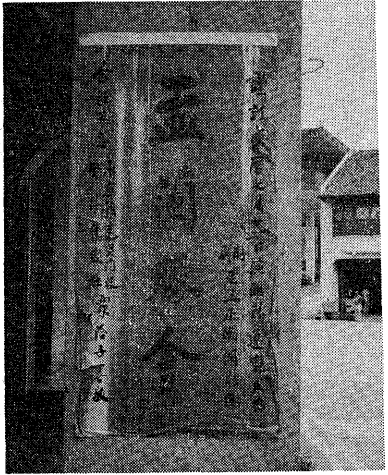
痕跡を残さぬ祭祀後の広場（丹戎百葛）

と、チャイナ・タウンと呼ばれる一角から離れた地域で行われる孟蘭勝会は、仮設された神殿、戯台が解体されると痕跡を残さず、佈告も張り出されることが稀であるため、時期を外した場合、後からはわからなくなる。それらの事情を考慮に入れても、大体の傾向は察知することができよう。すなわち上旬に約30パーセント、中旬は15パーセント、下旬は約55パーセントとなり、中だるみを挟んで後半にウェイトがかかることがわかる。また劇種も潮州劇、閩劇（福建劇）が主であった——従って中元節の中心的推進者は潮州や福建南部出身者ということになる——粵劇は広東系華人の居住地域を除いて見当らなかった（付表一 参照）

各出身地別の居住区域は、楊松年南洋大学教授の教示によれば、次の通りである。

- 福建系 直落亜逸街 Telok Ayer St. 芳林街 Hong Lim St.
- 潮州系 沙球勝街 Circular Rd.
- 広東系 牛車水 Kreta Ayer 珍珠坊 People's Park
- 海南島系 蜜駝律 Middle Rd.

これが再開発以前の出身地別の勢力圏であるが、Cross St. の東北



街頭に貼られた五蘭勝会の佈告

東南アジア華人社会の伝統芸能

側の再開発地域の住民は Havelock Rd. に建設されたマンション街に移っており、祭祀を主催する集団が地域と一体化していたかつての姿は見られない。広東系華人街も再開発が進行中で、牛車水人民劇場も独立の建物から現在は大ビルディングの一部となっており、変貌が甚だしい。海南島系の Middle Rd. も Rochor (梧槽) を中心に近代化が進められており、三年間で完結する計画で旧房屋の破壊が進行中である。

近代化の進行と並行して、観光促進局(Singapore Tourist Promotion Board)が、これらの地域性をもつ祭祀行事の日程を把握しているかと期待したが、両者間の連絡はまったくない様子で、公的な機関が主催する行事、演劇では

26—27, May, Chinese Opera (Kong Chow) Hong Lim Park

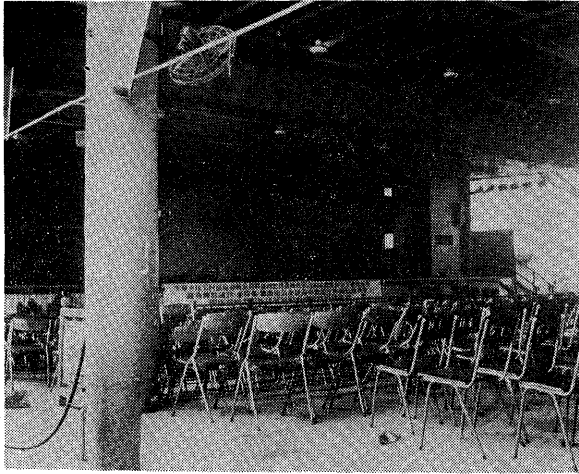
Ministry of Culture Singapore Tourist Promotion Board(主催)

1—2, June, Chinese Opera (Sin Kee Lin) 場所同上

主催者同上

17—18, June, Chinese Opera (Sin Yong Wah) 場所同上

主催者同上



一九七六年当時の牛車水人民劇場

の三件以外はわからないということであった。これは芳林公園での公演であって、この場合は観覧無料であるが、興行演劇で、地域とも祭祀とも無縁である。

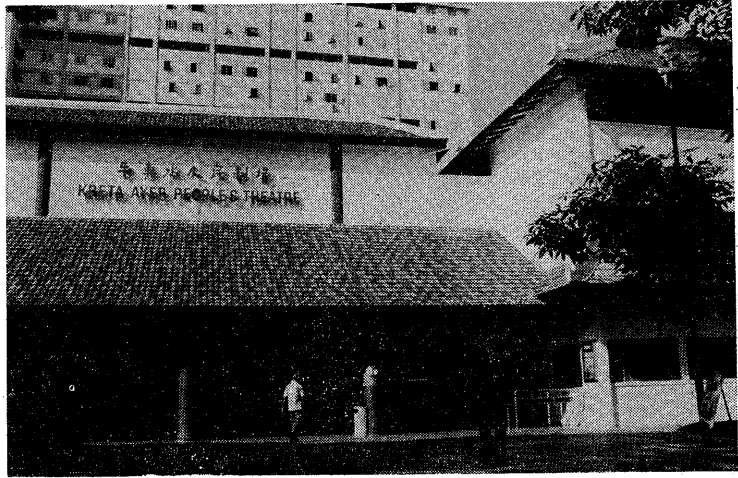
地域主催の祭祀・演劇についても、主催者相互の連絡はないよう
で、時期的に、また地域的に接近している場合に「あそこでもやって
いる。あそこの規模は、ここより大きい」という程度の情報しか持っ
ていなかった。

結局、佈告を目で探がし、その場所を耳で聞いて足で確かめるとい
う迂遠な方法をとった。新聞社にも期待したが、関心をもつ記者個人
は別として、社として民間団体の動向を熱心に探索はしていないよう
である。

その後の調査によって、各劇団——香港、バンコク等から招請され
る多少の例外を除いて、少数の劇団が巡回している——から日程を聞
き出す方法と、政府の内務治安局に出された孟蘭勝会開催の申請書を
見ることができれば、全貌がつかめることを知った。

祭祀と演劇の結合した行事は、三種類に分けることができる。

一、出身地域を同じくする同郷団体が主催し、一年に一度結束を確



一九七九年の牛車水人民劇場

東南アジア華人社会の伝統芸能

認するために行われるもの。

二、信仰を基盤とする○○壇、○○神社などが主催し、出身地方や職業に拘束されないもの。

三、主として宗族団体及び同業団体が主催するもの。

今回の調査は、この三種について、たまたま地域を異にして見聞することができた。

以下、この分類に従って記述したい。

* * * * *

中元節は、同郷の祖先慰霊と地域の一体性を確認するために行われるので、主催団体は地名を冠した「合衆社」「聯誼社」といった名称の団体が多い——これは同一地域を出身地とする人びとが、同一地域に移住した姿を反映するものであって、現在は二重に混乱しているようである。時間の経過に従って他地域の出身者が同じ地域に住む場合と、建物の近代化に従って同一地域の居住者が島内に分散して居住する場合とがあるからである。

「酬神戲」は二天連宵のものが比較的多く、香港が三天連宵を主とするのに比べて、規模が小さいように思われる。また戲台、神殿の配置でも、形式が異っている。会場の広さが形式に影響を与えているのかも知れないが、香港では必ず見られた「孤魂台」がシンガポールにはない。また俗に「雌の神」、「雄の神」と呼んでいる紙製の神も、シンガポールにはなく、代りに「神袍」が並べられることが多い。これには奉納した信者名と神の名が記されているので、その関係を聞きだすことができれば、興味ある資料が得られるかも知れない。

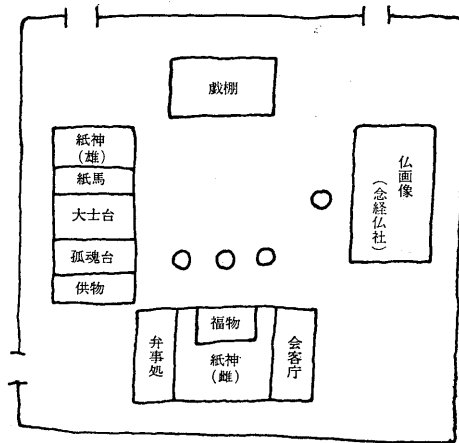
シンガポールでは、大坡丹戎巴葛 Tanjong Pagar 洛口羅禧律 P

SA 新二号門での孟蘭勝会を終始観察することができたので、まず配置について、香港と比較してみよう。

丹戎巴葛はすでに再開発された地域に属するので、孟蘭勝会の佈告はなく、かつての住民がかなり遠方から——たとえば合衆號の婦人は Cheong Chin Nam Rd. から来ていた——高層アパート街の中間にある芝生の広場に集って催したものである(二ページ写真真参照)。将来はこうした型が多くなるのであろう。

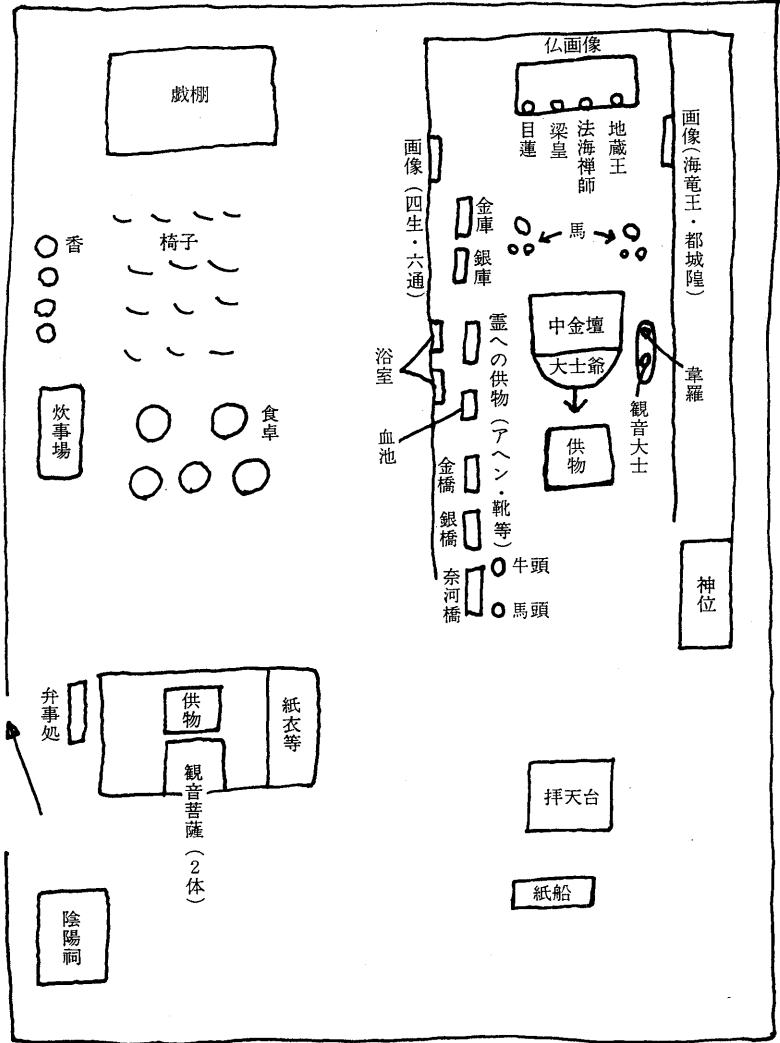
ここは福邑公建普度——シンガポールでは少数派に属する福清出身者を主体とし、それに潮州人などが加わった組織——の主催する孟蘭勝会で、農曆七月二十三日から八月一日(一九七九年は公曆九月十四日から二十一日)までの八日間にあたる大規模な行事なので、他を割愛して観察した。

香港・油麻地
旺角区四方街潮僑



新加坡・丹戎百葛・天来街
福邑公建普度

東南アジア華人社会の伝統芸能



炉主の挨拶、全文は以下の通りである。

新 一九七九 九月十四 九月廿一日
謹 涓 曆 年 月 日 至
古 歳次己未 七月廿三 八月初一日

為恭就大坂丹戎巴葛洛口羅禧律草場福邑公建普度特礼聘正覺寺啓建三晝夜道場由七月廿三日吉時豎幡廿四排壇廿五日上午八時發奏頂礼梁皇宝懺廿六日吉時拜礼斗廿七日下午四時放水燈夜晚施放瑜伽口内資恩賜外拔孤滯以此功德祈求世界和平国泰民安增福延寿務希炉主縁首各執事暨衆位善男信女虔誠到壇焚香礼拜由七月廿五日至廿七日敬演新慶華閩劇团三日夜廿八日至八月初一日敬演福州棠峯天班加冠全台三天連宵答謝神恩以昭誠敬慶讚中元佳節並治豆觴
恭候

陳双喜

光臨

正

炉主

嚴玉喜 仝敬約

副

韋春倂

慶讚中元
合境平安

「境」とここでのいうのは、主催団体が「社」を名乗らないことと、かつての住民が現在分散して居住しているためではなからうか。

ここは三十年の歴史があり、二十数年前には李光耀總理も参観に来たということを誇りにして、質問には快く応じてくれたが、質問の意図が十分理解されず、また故事来歴に通じている人が少いため、必ずしもすべて疑問が解

けたわけではない。彼らが残念がっていたのは、かつては馬路——Tanjong Pagar Rd.——に接して牌楼を作っていたが、政府に禁止されて八年になるということである。次の図の如きものであったという。空中に設けた歌台で男女各一人の歌手が歌う。福建人はもちろんのこと、広東人もその他の地方出身者も見物に来、聴衆が道路にはみ出すので、危険防止を口実に禁止されたという。祭壇、神殿等も他と比較して規模の大きいこの孟蘭勝会に、この牌楼は一段と精彩を加えたのであろう。これは住居分散以前のことであった。

質問事項は多岐にわたるが、本調査のための覚え書として幾つか記しておこう。
 〈廟会の日数について〉

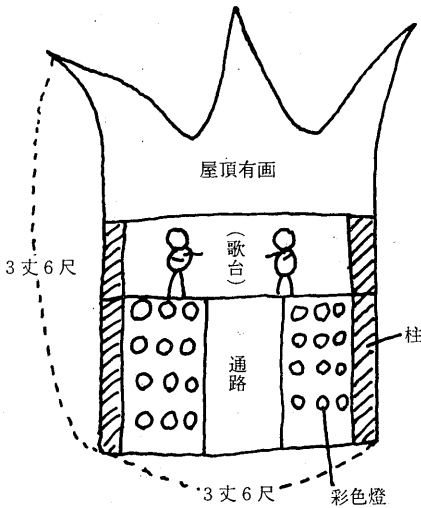
すでに佈告によって他の例を見ているので、ここが長いことについて質問してみた。

最長は四十九日、以下二十一日、九日、七日、五日、三日、一日、の七種あり、普通は三日であるが、ここでは十日——といったが実際は八日——で長い方であるという。

〈場所の確保について〉

こうした行事は、三か月以前に政府の内部治安局に申請することになっているという。ここが使用している広場は政府所有であり、他の多くの場合も、駐車場から一時車をしめ出したり、道路を半分占拠して仮設神殿、仮設戲台を作るので、許可を必要とするのである。

東南アジア華人社会の伝統芸能



ろう。

〈総費用〉

支出は約八万シンガポール・ドル(以下シンガポール・ドル)。内訳は、和尙に七々八〇〇〇ドル、設備も七々八〇〇ドル、戲班(劇団)への支払いは一日、一万ドル。その他——蠟燭、紙銭、供物、食事等——に一万ドルという。計算は正確でないが、概数を言ったのだろう。

収入は後に述べる「標福物」(供物のせり)と「楽消」(寄附金)であるが、収支は償なわぬという。

収支については後日報告されるであろうが、ペナンの「日本街暨日本新路」の孟蘭勝会の収支報告を中嶋氏と入手した。場所が違うし、規模もわからないので単純に比較するわけにはいかないが、詳細な内容なので付表の二とする。それによれば、麗声粵劇団への支出は五六〇〇マレーシア・ドル(シンガポール・ドルとほぼ等価)である。だとすれば、一日一万ドルは高過ぎることになる。

〈行事〉

前記の炉主の文中に示されているが、七月二十三日(農曆、以下同じ)の「豎旛」、二十四日の「排壇」、二十五日の「梁皇宝懺」を見逃したので尋ねてみたが、説明が厄介なのか、「来年また見に来なさいよ」といなされた。

〈酬神戲〉

前半三日は福建劇、後半三日は福州劇で、福州劇はシンガポールでも珍しいが、福清出身者が主体となっているためであろう。

香港の長洲島で行われる北帝廟の Bun Festival における酬神戲の場合も——前回の報告で「天后廟」と書い



戲館街両頭社の潮劇中の亡鬼

東南アジア華人社会の伝統芸能

たのは誤りであった——前半四日は粵劇、後半三日は惠州劇。「会景」と「搶鮑山」——前年に事故があり、一九七九年は「搶」が禁止された——が終つて後に惠州劇を上演するのは、惠州・海陸豊出身の福佬系住民が主体となつて廟会を推進しているからである。

シンガポールの場合も途中で劇種が変わるのは、同様の理由からと考えられるが、確認を怠つた。前半は多数派住民のために一般的な劇種を上演し、後半は主たる推進者のために郷里の劇種を選ぶのではなからうか。いずれにせよ、軌を同じくしているのは興味深い。

上演する劇目と主催団体との関係は、最も興味のある問題であるが、選定は一切戯班まかせであるという答は意外であった。種々の職業を含み、また出身地も一様でない——結婚の相手を選ぶ場合、同郷人であることが前提になるかという質問に対して「什麼人也可以。印度人也可以」というのが答であった——ことから、拝神の対象が普遍化し、とくに劇目を限定する必要がないためかとも考えられる。

この場合は、観音菩薩が祀られていたが、これについてペナンで

劉果因氏から伺った話では、身一つで海外へ出た華僑が、救命の神として崇拜したものだということである。このことについては、近く同氏が論文を発表されることであつた。

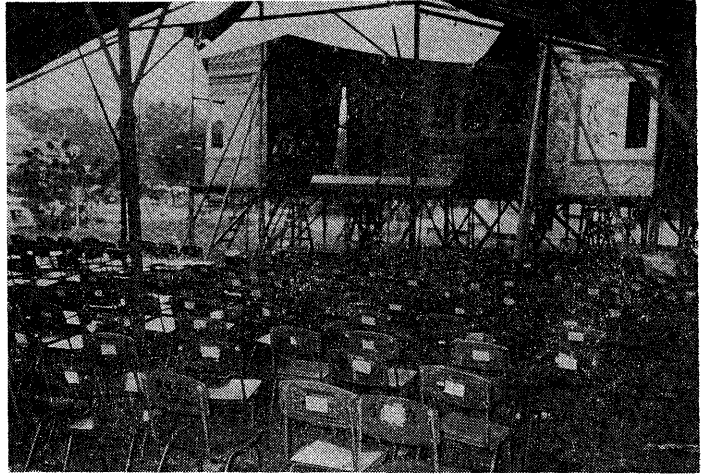
劇目については指定しないことであつたが、広東街口站駁船聯合主催の新賽鳳閩劇団と、戲館街両頭社主催の老賽桃源劇団は、劇種は福建劇と潮州劇の相違があるが、亡霊の出現という共通項を持っていた。孟蘭勝会と何か関係があるかもしれない。しかし、酬神戲そのものがマンネリ化し、今ではアトラクション的要素が強くなっているから、主催者側が劇目の指定をしないと考える方が自然かもしれない。

但し、劇団はそれぞれ冒頭の劇で「跳加冠進祿」を必ず行う。これについては、新慶華閩劇団の蘇月華女士からの聞きとりを参照されたい。(付録)

新慶華閩劇団の団員構成は、余亜妹団長、主角文武正生蘇月華小姐、文武正旦筱玉英小姐、三花小生蘇月珠小姐(蘇月華の妹)、文武花旦徐玉琴小姐、彩旦美蘭小姐、反派小生林招植小姐、丑生筱妮、文武艷旦許愛華小姐、黄梅調聖手林金蛙小姐、歌唱聖手玉玲令小姐、そ



蘇月華小姐の舞台姿



丹戎百葛の戲棚

東南アジア華人社会の伝統芸能

の他に聞きとりに応じてくれた郭鳳福氏ら二、三の男優から成る。事務所はシンガポールとクアラ・ Lumpur にあり、シンガポールとマレーシアで活躍中とのことであった。

新慶華閩劇団の戲題

初日 夜演 * 万花献寿、劉金定殺四門

第二日夜演 * 大三仙、惧殺鄭恩

第三日日演 臨江駅

夜演 * 蟠桃会、七子救駕六子成

新樂天班の戲題

初日 日演 ** 福祿寿、義婢伸冤

夜演 * 八仙大浮海、仏門得子

第二日夜演 ** 福祿寿百竹山、義漢救主

第三日夜演 ** 天官賜福、邱玉成

* 祝福の「折子戲」の後で子供の人形を舞台から神殿へ捧献する

(「跳加冠進祿」)

** 仮面をつけた神が、祝福の句を記した布の巻物を広げる(「天官

賜福」)



新慶華閩劇団の「加冠進禄」

日演も確認する必要があるが、他の調査や本調査のための交渉などと重なり割愛した。日演は見物人が少い——ほとんど子供ばかり——ので、若手俳優の訓練にあてられる場合もあるが、見物人なしに熱演をしている場合もたびたびある。

たとえば、八月初二日の Boat Quay での新賽鳳閩劇団の日戯「鉄板記」は、女性一人の見物に対して、団員総出の熱演であった。

また、九皇爺法会の終った翌日十日（九月初十日）の、クアラ・ルンプルの安邦新村にある南天宮の正面の舞台では、新麒麟閩劇団の日戯「双想思」にはまったく観客はいなかったが、手を抜いている様子はなかった。

劇団の演技水準について意見を求めたところ、シンガポールでは粵劇が最高水準にあり、岡州会館は高い芸術性を維持しているという。

シンガポールの劇団を徹底的に調べるには時間不足であったが、一九七二年二月十九日から二十四日（新暦）、人民劇場主催「地方戯観摩大会」のプログラムを見ると、各種の地方劇が維持されていることがわかる。

岡州会館は広東省新会県出身者の組織で、New Bridge Rd. 正面、Kreta Ayer Rd. と Teo Hong Rd. の中間にあり、設立以来百三十九年の歴史（一九七九年現在）をもつ。同郷人の憩いの場として利用されてきたが、第二次大戦後は「文娛活動」に力を入れ、醒獅団・楽劇部・飛車部・群育部・福利の面での組織化をはかり、会員子弟のために奨学金も出しているが、とくに目ざましいのは楽劇部の粵劇で、粵語テレビ劇は好評を博している、云々。（同プログラム中の「岡州会館歴史簡介」）

餘娛儒樂社は一九一二年に創立され、漢劇愛好家の業余劇団として活動を始め、チャリティー演劇をしていたが、一九四七年に潮州八邑会館に参加し、一九六〇年以後は潮州劇の俳優も育て、映画・テレビに活躍している、云々。（同「餘娛儒樂社簡史」）

筱鳳閣劇団は一九五七年に、閩劇の研究団体として設立され、俳優の養成に当たっている。（同「筱鳳閣劇団成立簡史」）

瓊南音楽劇社は、戦争で各地に散った俳優を集め、一九五〇年代に瓊劇（海南島劇）の再興に当たった業餘劇団であり、一九五七年四月二十七日に正式に発足した。六一年になって「演員訓練班」を設立し、俳優を職業劇団に送りこんでいる、云々。（同「瓊南音楽劇社簡介」）

京劇も戦前は愛好者が多く、Neil Rd. の広東会館の一角を借りて平社を設立し、抗日戦争中にチャリティー演劇を行って義捐金を集める活動などをしていたが、シンガポールが日本軍によって占領されて以後閉鎖、戦後いち早く復活し、毎日曜日練習を続けている、云々。（同「新加坡平社簡史」）

人民劇場は一九六九年三月に竣工し、ビクトリア劇場、国民劇場と鼎立する形で華人のための劇場という性格

を強くうち出している。最初は露天舞台をもつだけであったが、六年九月二十七日に正式の認可をうけ、募金をして屋根をふき、床を板張りして第二期工事を終えた。(前回参観した時はこの状態であった)一九七一年五月に第二期計画が完成すると、直ちに第三期計画——

- 一 椅子、
- 二 燈光及播音控制室、
- 三 劇場周囲之公路与停車場、
- 四 其他劇場内の各種設備——に着手し、今日見られる近代劇場となった。その間にチャリティー演劇が十数回にわたって行われているが、なかにはインドの映画スター出演、ドイツ大使館主催の魔術大会なども含まれている。

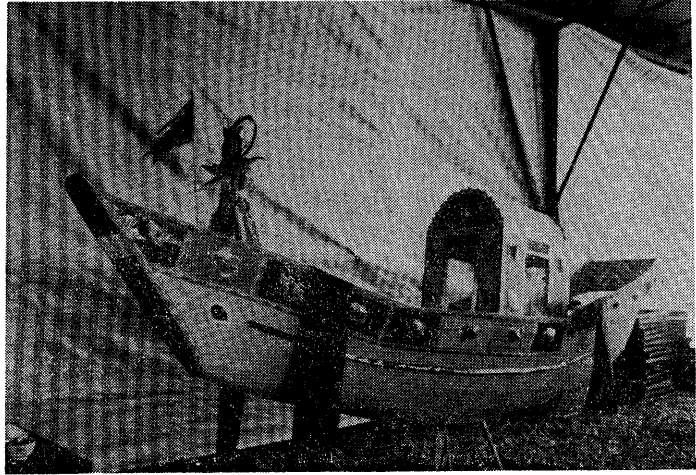
こうした劇場演劇は、「票友」(素人愛好家)による上演が多く、職業劇団にしても興行演劇に移行している。我々の調査目的とは合致しないが、劇団の歴史を調べるためには有力な情報源である。

古い劇団、たとえば老三正順劇団などはシンガポール河畔に現在も事務所を構えているので、直接的にはこれら職業劇団を調査する方が効果的であろう。

しかし、一般に民間地方劇は人気が下る一方で、見てわかり、聞いてわかる人は多いが思想が保守的なので、「歌台」やテレビドラマの方に



老三正順劇団の事務所



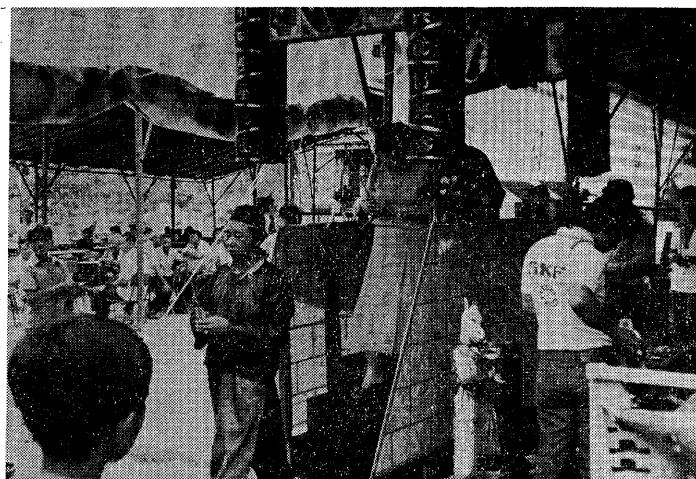
福邑公建普度の紙船

東南アジア華人社会の伝統芸能

若い人の好みは移っているという。香港でも同じ傾向が見られるが、これが一般的な風潮なのであろう。

若い人に、「地方戯は面白いか」と質問したら、「様板戯の方がよい。よくわかる」という返事であった。そこで、人氣が落ち目の地方戯に執着する理由を質問したところ、「政府は、学校を英文と華文の教育にわけており、その卒業生は物の見方、考え方がまったく違っている。伝統的な礼節を保存し、戯劇を維持しようとする人は、子弟に華文教育を受けさせており、地方戯はそのためにも重要である」という。但し、京劇はまったく人氣がないとのことであった。

劉果因氏とペナンで古いものに対する青年の反応について、同じようなことを話題にした際、劉氏の意見では、英文教育を受けた人は、中国固有の文化に強い関心を持ち、華文教育を受けた人は無視する、という正反対の結論であった。その原因はマレーシアで華文教育に当たった人は、「新学」の教育をうけ、辛亥革命後の反動期に脱出してきた人が中心勢力を形成し、反迷信教育をしたからだと考えるところであった。シンガポールとマレーシアは隣接する国であるが、華人とマレー人の人口比率や国内治安、



奈河橋を渡る爐主

国策等で、かなり違った方向を目ざしているように思われるので、こうした情勢がかなり大きな要素となっているのではないかとと思われる。

〈祭祀の行事〉

仏前で納経の順序に従って和尚らの読経が行われる。居合わせた男女が礼拝することがくりかえされる。

七月二十七日は、「超魂」のために「放水燈」が行われる。三時半になると、和尚らを先頭に、神像・供物・線香を捧げる男女が、仏前から奈河橋を渡り、神殿を廻って拝天台のわきから紙船のわきを抜け、仏壇と中金壇——これは三十三天と十八層地獄の中間を埋める建物との説明であった——の間を通過して奈河橋を渡る、のくり返しである。この奈河橋を渡るのは、「如果通過此三橋——金橋と銀橋を含めて三橋といったが、この両橋は渡らない——表示無罪」という意味をもつのだという解釈であった。橋の神の信仰によるのであろう。

四時になると、燈・旗・祭壇・紙船二艘・僧侶・炉主・楽隊——ドラ、鉦、太鼓——線香を捧げる男女の順で、祭場を出発し海辺へ向う。海岸は貨物の積降ろしのための埠頭なので、許可がなければ入れ



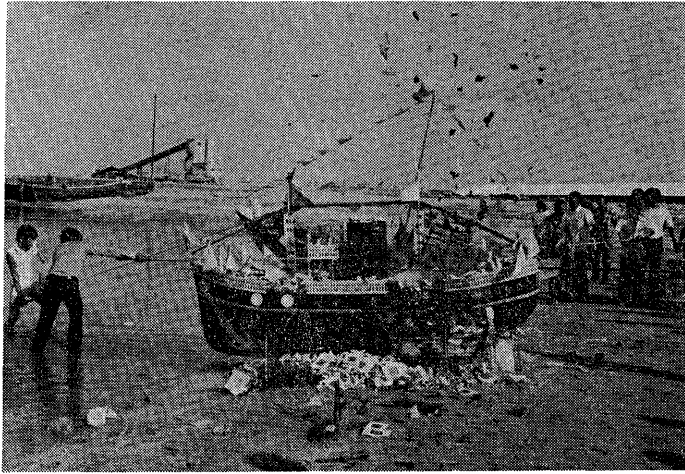
海辺での「放盆」

ない禁区となっている。現地の人はIDカード、それ以外の人はパスポートが要求される。行列を組んで禁区に入ってから、バスに分乗して海辺へ向う。海岸の高台に祭壇を設けて和尚が読経し、最後に供物の米飯を浜へ向けてぶちまける。海辺では、男女が手にした線香を立て、供物を並べて礼拝する。盛大に泣いている婦人は、昨年身内を失ったのであろう。海面には「放盆」——パラフィン紙に蠟燭を立て海へ流す——が行われ、潮の流れに乗って入江の対岸へ漂う。最後に紙の船に紙銭が積みこまれ、火がつけられる。

この行事は、沿海ではどこでもやっているが、主として福建人の儀式であるという。

もとの祭場へ戻って、食事をすませると、三十七種の異った供物が大士爺に供えられる。これを「餓口」といい、そのあとで炉主を加えて盛大な読経が行われ、施餓鬼の行事は終りとなる。

この日は、光明山普賢禅寺でも盛大な祭があるということなので、午前中に行ってみたが、スクール・バスを連ねて参詣人が来るが、とくに変った様子は見られない。参詣人のことばは広東語であったので、広東系の寺院かもしれない。

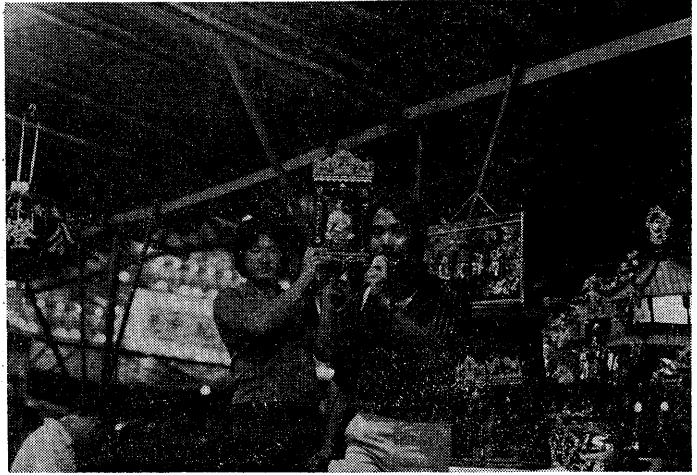


火をつけられた紙船

七月二十八日は、午後四時に會員に「礼物」が配られ、七時に「酒会」が始まる。昨日まであった仏壇、中金壇・大土爺——唐の李世民の時代に、「観音大士無法管理孟蘭勝会、变身大土爺、然後管理」と素性の説明をしてくれた。法会の終了後、冥界から来た亡者を連れもどす役割をもつのだということである——などが片付けられ、そこに宴席が作られる。席数を数えてみると、ざっと八百人くらい、西洋人が一組招かれてきていた。次々に料理が運ばれる中で、「標福物」が始まる。

「都縁首」四五〇〇ドル、「副縁首」三二〇〇ドル、「預縁首」二一〇〇ドル、「助縁首」A二二〇〇ドル、同B二〇〇〇ドル、同C二〇〇〇ドル、「福縁首」二二〇〇ドル、「禄縁首」一八〇〇ドル、「寿縁首」三〇〇〇ドル、「喜縁首」二五〇〇ドルまでせり上って、寄附を申し出る。

「縁首」の意味を質問したが、「都」は状元、「副」は宝(榜)眼、「預」は探花。「助」以下は進士である。いずれも「閻王有奉職位給他」であり、孟蘭勝会に「出力、出銭」するのであるという説明であった。



「標福物」の情況

東南アジア華人社会の伝統芸能

ついで「燈籠」A五五〇〇ドル、同B二五〇〇ドル、純金の打物A二六〇〇ドル、同B三〇〇〇ドル、「観音大士像」一二〇〇ドル、「天公燈」一对三三〇〇ドル、「燈・合家平安」一对一〇〇〇ドル、「燈・神馬第一獎」一、〇〇〇ドル、「額・金玉满堂」四一八ドル、「観音大士像」五〇〇ドル、「額・財源広進」六〇〇ドル、「感天大帝」四〇〇ドル、「観音大士像」四〇〇ドル、「閔公」四〇〇ドル、「大伯公」一〇〇〇ドル、米一袋A五〇〇ドル、同B一五〇ドル、同C一六〇ドル、……と続く。

せりは、年輩の人は福清語、若い方は閩南語、時々北京語もまじり、「来、来、来！」とせき立てながら、値を釣りあげていく。せり落とされると、「熱烈地鼓掌」とか「多多鼓掌」と叫びながら、ドラを打ち鳴らす。

翌日も続けたが、目ぼしい品物は第一日であらかた売りつくしたようである。これらの値段は相場より高いと思われるので、念を押してみると、神の物のありがたさを買うので、これを買うと商売は繁昌するのだという。共同体への忠誠度かはかられているという感じがする。別の人に尋ねてみたところ、これによって地域の信用が得られる

ので、高利貸から借金して払う場合もあるということであった。

七月二十九日の「標福物」は、マイク・スピーカーを取り外し、弁事処の人たちが交互にせり落している程度で、一方で福州戯が上演されているが、行事の山場は越えたという感じである。

八月初一日は、夕刻から神像や炉を片付け始め、質問に答えてくれていた王志才氏が多忙になったため、片付け先など確認できなかったのが心残りである。廟を持っているのかどうか、どこかの廟に預けているのか、あるいは炉主の家におくのか、来年の孟蘭勝会までの期間の結束の持続のしかたは宿題となった。

注 前回の報告は、田仲一成氏の教示により以下の個所を訂正する。表(20ページ)上欄、後より3行目「^x楽当老区」は「[○]楽富老区」。下欄、後より2行目、官塘保慶愛壇」は「[○]官塘保慶愛壇」。表(21ページ)上欄、1行目「^x石峡尾」は「[○]石破尾」。下欄、5行目「[○]義善社」は「[○]義徳善社」。9行目「^x西濠涌」は「^x西蟻涌」。

付表 (一)

佈告の文章は、冒頭が「謹訂」「謹定」「謹詹」「請消」「消」「擇定」等のパターンにわかれるが、「擇定」が「壇」の佈告であることを除いて、本文に示したものと大差はないので省略する。なお「合衆社」「聯誼社」は「合社平安」、「壇」やギルドの場合には「合境平安」とする区別が見られる。関係者の居住区域の反映であろう。

中元節(農曆七月)

日時	劇団名	期間	劇種	主催者
初一、二、三	老一枝香班 鳳凰流動歌台	二天 一晚	潮	後吧窰合衆社
初一	老榮秀春班 (清唱)	一晚	潮	摩哈目蘇丹律
初三、四	青囊玉樓春	二天	潮	吻基柴船頭社
初四				東陵律合衆社
初五、六	老賽桃源班	二天	潮	吻基街合衆社
初五、六	新潮芸潮劇団	二天	潮	晏呀社
初七、八	瓊聯声劇団	二天	?	小坡奎因街 天后聖母兄弟公
初八、九、十	天鷹粵劇団	一天	粵	摩士街孟蘭勝會理事會
初九、十	織雲潮劇団	一天	粵	(真記花店加演)
初十		二天	潮	(永万生大号加演)
十一	熊荊荊歌劇団	一晚		藍峇街合衆社
十一、十二	老三正順劇団	二天	潮	萊仙士旅店德士站 麥加南社 水廊頭・克里門梭・登律

十三	十三、十四	鶯燕閩劇團	二天	閩	集衆社 須涯律区大公司
十五、十六	歌台	天鷹粵劇團	二天	粵	濟智 噶吧威爾聯合社
十八	蓓蕾歌劇團	一晚			広合沅 丁加奴街聯合孟蘭勝會
十九* 十九、廿	新慶華閩劇團	二天	潮	水廊頭聯誼社	
廿一、二	老三正順劇團	二天	潮	吉美丹街・巴沙巷・畢街 ・勝街	
廿二、三、四	(歌台)	一天		水廊頭・克里門梭・登律 集衆社	
廿三	老賽桃源劇團	二天	潮	紐頓圈熟食小販	
廿四	新慶華閩劇團	一天	閩	巴沙巷聯合社	
廿四	金聯發歌台	一宵		吻基十八溪墘区 羅厘合衆社 連巷合衆社	

廿五、六、七、 八、九、八月初一	廿五	廿五	廿五、六	廿六	廿六、七	廿七	廿八	廿八、九	廿八、九	廿九	廿九	廿九、八月初一、二
新慶華閩劇団 福州樂峯天班	金竜歌台	老三正順劇団	陽光歌劇団	新麒麟劇団			新芸華歌台	日月星賞中班	老賽桃源劇団	双飛鳳高脚隊		南芝閩劇団
三天	一宵	二天	一晚	二天				二天				三天
閩		潮		閩				潮	木偶	木偶		閩
丹戎百葛福邑公建普度	海陸起落貨工友社	海關街聯合社	披沙街合衆社	四馬路德示站慶中元會	珍珠坊德士站 聯合商号	美芝律三軍俱樂部中元會 商聯合社	德士司機	畢街小公司	戲館街兩頭社	中峇魯	中峇魯	順豐商店 中国街小販聯合理事會

八月	初一、二	新賽鳳園劇團	二天	閩	廣東街口站駁船聯合
初一、二	老賽桃源劇團	二天	潮	戲館街兩頭社	
日時不明	旋 ^{*3} 音歌台	二天		吉寧街聯合大門內	

* 1 佈告の用紙が破れていたのので確認できず。

* 2 木偶戲(布袋戲)は、日数の確認を忘れた。

* 3 大規模の歌台であつたらしい。佈告の全文は次の通り。

慶祝中元 聘請旋音歌台 助興二天

司儀 依琳、陳雲

夢者大樂隊、白熊大樂隊、彩霞女子樂隊、(印度) 廖內新星大樂隊

港・台・星・馬・印

陳彩珍、陳建彬、夢華、蔡沖、梨川、

紫凌、呂達、鑑潔、方羽、葉玲

方雲、吳剛、佩莎、藍桜、鍾佩玲

劉美華、黃清元、馬艾妮、南宮雁、水銀銀

黃妙君、林慧敏、林鳳玲、蔡莉莉、陳金浪

陳佳佳、陳美光、陳慶華、雷峰、雷奇

付表 二

檳城、日本街暨日本新路、五蘭勝會

——公元一九七八年至一九七九年度——

炉主・頭家・職員

- 正炉主 一、 副炉主 一、 頭家 四、 法律顧問 律師 一、 會務顧問 拿督一、 國會議員 二、 名譽
主席 個人一、 法人五、 正主席 一、 副主席 一、 正總務 一、 副總務 一、 正財政 一、 副財
政 一、 查賬 一、 正文書 一、 副文書 一、 正人情部主任 一、 副人情部主任 一、
協理員
個人 一二、 法人 一、
會員 (每名月捐三元五角 本年潤六月全年一三個月 月捐每份四伍元伍角)
個人 一五一、 法人 四六、 (一九七份)

東南アジア華人社会の伝統芸能

- 唐妮 華玲玲 周黛蘭 陳如君 李慧玲
朱婷儀 藍小玲 張乃鳳 姜萍華 李華華
洪小凌 李進才 蘭花姐妹 双玲姐妹 上官琳雁
紅麗姐妹 杜氏姐妹 明珠姐妹 芷芸 林楓
唐欣 王梅 張甄 珊瑚 羅賓
謝天 江峰
(香港 謝竜雜伎団)

注 法人会員の職業 理髮院 一〇、茶室 一〇、飯店 七、貿易 三、藥行 一、雜貨 一、印刷 一、廣告 一、洋

服 一、美術 一、皮革商 一、皮革工場 一、その他 七(記 四、有限公司 二、不明 一、)

戲金染捐

六〇〇元 名譽主席(一)、三〇〇元 正炳主(一)、二〇〇元 頭家(二) 正主席(一) 法人(一)、一〇〇元 法人
(一) 無名氏(一)、五〇元(二)、三〇元(三)、二〇元(三)、一〇元(一)、一〇元三角(一)、一〇元(三九)、五
元(四七)、四元(二)、三元(九)、二元(二八)、一元(四) 計三九五二・三ドル

注 二〇〇元の法人は一九八〇年度の名譽主席

収入

支出

承上年結存

九七九・三八

麗声粵劇団

五六〇〇・〇〇

会員月捐

八九六三・五〇

海景樓宴金一單

二四〇二・八〇

会員中途退出

一〇・五〇

福興号雜商

一一九二・〇〇

戲金染捐

三九五二・三〇

陳清水搭棚費

七五〇・〇〇

神壇香油箱

九四三・五〇

記松香紙庄大士公一單

五〇〇・〇〇

香油染捐

三二九三・〇〇

金星電器一單

三三四・五〇

漢民学校募捐箱

五三・〇〇

吳華林生菓一單

二三七・八〇

宴會点唱樂捐

一一一九・〇四

球利金猪一單

四二七・〇〇

樂捐行運獎現銀

六三・〇〇

幸運獎(拾風扇、電煲、各一白鴿嘜麵一二盒)

一七七・〇〇

酒席券

五〇〇・〇〇

新泉成(香、燭、酒、汽水)一單

七二七・一五

合衆銀行利息

一七五・七四

計	二万一五二・九六
人情部収入	
承上年結存	九七九・〇〇
人情部月捐	六六三・〇〇
部員中途退出	〇・五〇
計	一六四二・五〇
工作人員福食一單	一五七・二五
海景樓宴会音楽助興	一三〇・〇〇
徐作能紅包	一六〇・〇〇
羅洪恩棕櫚一單	四五・〇〇
沛記号大蠟四对一單	七二・〇〇
全平香餅家一單	二三四・八〇
炊熟雞一單	一〇〇・〇〇
譚普新号(刻金較剪一把)	四・〇〇
抬椅搬運(囉哩車費用)	二四・〇〇
排椅位四日費用	二五・〇〇
瑞和師父開光	四八・〇〇
広同和電晒一單	二四・〇〇
樂捐(漢民学校重建基金)一單	二〇一九・〇四
出席街区代表	九〇・〇〇
春華印務局(全部印)一單	七七・七〇
樂捐明德行卡片一單	二〇・〇〇
日本街二三号搭木架一座費用一單	四五・〇〇
救火機(二支)一單	四〇・〇〇
銀行費用	二二・五〇

文具雜費

成發号承印上年度賬目單

三四・三五
五四・〇〇

米商号(放生錢)一單

六・〇〇

高仲候号(彩球・彩帶)

一四・〇〇

義和号(藤二支)一單

一五・〇〇

遠興号(角木条六支)一單

一二・四〇

万隆烟草公司(香烟四条)

四三・六五

八包紅包

五七・二〇

興利号(金較剪一把)

一〇・五〇

茶水費用

一二・〇〇

光華日報一單

八・〇〇

東方美術復印紙

四・〇〇

五〇個塑膠牌

二七・〇〇

樂捐(牛干冬睦鄰計畫中心)

二〇・〇〇

新旧職員交待宴會(海景樓)

一單 一五一・八〇

計 一万六一五六・九四

孟蘭勝會進支賬目（一九七九年）

承上年結存	九七九・三八
本年總收入	一萬九一七三・五八
總共	二万一五二・九六
本年度支出	一万六一五六・九四
本年度結存	三九九六・〇二
人情部	
承上年結存	九七九・〇〇
本年總收入	六六三・〇〇
中途退出一名	〇・五〇
總共	一六四二・五〇
支出 帛金人名	二八〇・〇〇
支出 花圈一單	一二・〇〇
總共	二九二・〇〇
本年度結存	一三五〇・五〇
本年度式條總結存	五三四六・五二
*	*
*	*
*	*
*	*

孟蘭勝會（一九七九年）熱心商号暨人士捐白米餅干等

白米二包 五件

東南アジア華人社会の伝統芸能

白米一包 一九件

牛奶一箱 一件

同業捐幸運獎品

現金 一三件 品物(煙草・魔法瓶・サングラス・カセットテープ・黒ビール等) 三三件

一九七九年至一九八〇年職員

會務顧問 一名增、名譽主席 法人四增、文書 中文と英文にわけ正副各一(二名增)、協理員 個人一、法人四增。

付録

蘇月華女士との会見記

(一九七九年九月二十九日)

(問) 我們很喜歡看戲。在日本沒有機會看到中国的地方戲、所以呢、現在我們來星加坡看地方戲。還有我們的目標要研究星加坡的人喜歡不喜歡看地方戲、他們看戲反映怎麼樣。還有呢、蘇月華女士的過去的——從小時代的履歷、——(很苦呀!)——請給我們講一講吧。還有、當做演員要具有甚麼樣的條件、練習的過程。蘇月華女士應該有師傅吧。——(有、有。)—請把這樣的關於戲劇的一切話、講給我們聽。

先把自己從出世以來到現在的過程、請給我們講一講……。

(答) 我的經歷很苦呀! 我在……好像是一九……好像是沒甚麼注意的啦! 差不多是一九四九年、五〇年我就正式開始學戲、

當時因為我們的家裡很苦、環境完全很不好、所以我希望能夠出來幫忙工作養家庭的、而且從小對戲劇很有興趣。這樣、我就第一次參加「南藝民(閩?)劇團」

(問) 當時幾歲？

(答) 當時……當時決定演戲的時候，讀書不算，正式開始十四、五歲的時候。

(問) 加入民劇團開始，以後呢？

(答) 講最初練習很痛苦呀！因為跟老板打合同，一個月只是二十塊錢。每一天的早上啊，差不多是六點我們就起來練舞了，練打筋斗，不過這個年齡已經不能的了，有時候呵，學得腿黑了、腫了，連蹲下去都沒弁法蹲。大概是在十點的時候，就有東西送咖啡或者是 *Nasi Lema* 或者是麵包。這樣給我們吃早飯。十一點練完，我們就再練唱歌和跳舞、打鋼琴，這樣練一個多鐘頭，就休息吃飯。吃飯了就練琵琶。練完了琵琶，練得不好就挨打。差不多練一個鐘頭啦。那個時候啊，很少演出押神的戲啊。那個時候時常演世界裡面的戲——快樂世界啦、大世界啦、美世界等等。

(問) 那麼，練了幾年之後，才可以當做獨立的角色？

(答) 這樣呵，最初的時候先練呢，一直練下去了，直到晚上啊，就化裝演戲。那麼，有空閒的時候呵，必須跟老板洗一些上台的大衣，圍巾要拿去洗，這樣一直做。這種演戲要看人的天才——看人的一種天才。有些人學了十多年還是老樣子。有些人學得比較快，好像我學了四個月，可以登台正式演一個角色，我比較有天才。這樣演戲的時期呵，就受到老板的管束。好像你要買甚麼東西，你要去哪裡，必須要告訴他，不可以隨隨便便就跟人家一起去。因為如果給人家帶走了，他責任很大，所以我們很不方便。

這樣最初的演戲呀，甚麼都不懂啊。如果在台上呵，好像演得小兵呵，要小心不要擋住那個大角色了。那些會演戲的人的台步啦，如果擋到他了，他就順便拿那個馬鞭呢，這樣打。你如果拿那個官刀給他，你擋到他的脚步，他的去路，他就用官刀打你。

——（日本的歌舞伎也有類似的情形。）——這樣，好像我們呢，家庭的背景不好，我們一定要好好的學。學一種學藝，要顯做有一種經驗的人，自己自安慰了。我們有一套戲「王宝釧」。她的丈夫呵，去打戰十八年以後才回來。她在那個寒窰裡面吃桑葉了。這樣渡過十八年啦，自己安慰自己。

(問) 你府上在哪裡？ 你在哪裡生的？

(答) 馬六甲。

(問) 你父親、母親都是福建人嗎？

(答) 父親是福建人。

(問) 福建的哪一個縣？

(答) 南安、是從中國來的。母親是潮州人。

(問) 蘇女士的家庭、本來以前沒有跟做戲的關係、是不是？

(答) 沒有。我對戲劇很有興趣、所以地方的戲劇來到馬六甲的時候、那個酬神的戲、我就去看。看了以後、心裡就想馬上就學戲。這樣我參加了「南藝民劇團」。

(問) 你甚麼時候可以當主角了？

(答) 主角沒有這麼快哦。參加劇團五年以後、應該是我們可以演了。至少啦白天戲我們可以當主角。因為呢、白天的戲比較沒有人看、所以我們就這樣學起。不過應該我們的薪水是要昇、可是老板他不給。五年以後、他還是不給。後來就父親來談判、然後就一天變成四塊錢呢、一個月就有百多塊了。因為那個時候學戲很專制、老板對一切有力量。現在不一樣了。小孩子、你不能够多講他、你如果講、他可以不要做、他這裡不要請他、別的戲班可以請他。

許愛華啊…… 她今天白天要演戲、不可以來。她比我們更苦啊！ 她呢、四、五歲就學戲。從小的時候、她的父親、母親也是演戲的。不過、她的父親和母親的意見不合、他們夫妻分居了。她父親就將她很小就交給他的祖母了。這個小孩子學得很快、將來她可以頂得上主角了。人家要甚麼就有甚麼都學過。

(問) 她是你的親戚嗎？

(答) 沒有親戚的關係。不過她的母親哦、她的母親、從小就跟我一起在馬六甲一起長大的、所以我們一起來學戲。我早她幾年、早她

三年。

這樣我們繼續下去，一直演戲了。這樣，如果遇到這個男女主角有甚麼生病、養孩子，或者是探親，或者是意外事情了，就把我們拉進去當主角了。當他們回來的時候，再不能夠演主角。這樣時間，就這樣拖來拖去，我學得差不多十年，然後才能演女主角。十年以後，我差不多二十六、七歲了。

(問) 現在請把你們劇團的一年間的計畫、講給我們聽。比方某某節日演某某戲。

(答) 劇團呢，如果在正月的時候，就比較有點忙啦。因為二十九，我們就停演了，正月農曆年三四，我們就開始演戲。兩場有時間演到，三場有試過。玩到印尼 (Indonesia) 啦，汶來 (Brunel) 馬尼拉 (Manila) 或者是泰國那一辺合文 (Hat Yai) 我們有試過演三場的戲了。正月比較好，那麼二月就比較小月。二月，戲是有有了，但戲少，而且呢，人家酬謝神的時候少，戲金少，請我們去演戲的錢少，這樣，老板比較虧本呢！三月差不多這樣啦，四月也是差不多，五月就很好了。五月、六月、七月……七月是最好了，最好是七月。七月呢，因為人家盂蘭勝節紀念目蓮救母，跟目蓮超渡是七月啦。目蓮呢，他的父親死了，他的母親很壞，連狗也殺來吃，這樣就犯到那些神就打到十八地獄了受苦。那麼，目蓮呢，現在的地藏就是目蓮，所以每逢七月，就替目蓮超渡。人家拜鬼神甚麼，就是說，像目蓮這麼，像盂蘭節，中元節啦，這樣這個月的時期呢，如果平常呢，平常兩天只千五，在七月兩天就是三千六，多出一倍多。八月就是中秋節啦。算是，也是應該很好了。不過沒有七月份那麼高的餽錢。九月，九皇爺的戲，也是很好。十月、十一月、十二月就差了。尤其是十二月，最多是十多天的戲。十二月二十四，我們華人神上天了，沒有戲。正月初四神又回來。

(問) 你們除了星加坡以外去哪個地方？

(答) 很多地方。聯邦 (Malaysia) 現在要這個護照比較手續麻煩，不過我們現在進聯邦的限制旅行啦，我們去演幾天，去三四天就回去，最多是一個禮拜，而且去得不遠，Batubaha。在過去我們呢，如果沒有戲的時候，我們會過去，比方說 Sandakan, Takaruta 也去過。

(問) 你們的演員都是福建人嗎？

(答) 不，好像我們的演員呢，在台上用的全部都是福建話，不過，甚至印度人也參加我們的演戲，不過他是做兵，他學久了也會講福建話，不過他很黑，他可以演小丑，他会演得很好。還有，廣東人啦，潮州人啦……很多呀。台上一定要講福建話。

(問) 那麼音樂隊呢？

(答) 我們大多數分兩種。二胡、洋琴、saxophone, clarinet, 參參。有時候你演這個江山美人啦、參參西樂配合它的戲劇。音樂是要配合戲劇的。

(問) 你們表演的時候，都同一個樂隊嗎？

(答) 沒有固定的。不過有一些有固定的也有，不過根挾劇本的很少。

(問) 做戲有沒有固定的內容？比方說七月份演甚麼，八月份演甚麼。

(答) 劇目是沒有固定的。不過，表演的劇目，好像哪一月就演哪一月的戲，屬於哪一月的神靠近一些。七月是神戲。

(問) 你們劇團的團長也同時當做爐主嗎？

(答) 不是，不是。丹戎百葛的演戲呵，那邊的爐主請我們去。他事先跟我們接洽好了，決定了時間、日子，然後我們告訴我們的演員，把他們載到台上，我們載到那裡就演到那裡。我們必須護送他們去，這樣這個爐主必須要跟我們通知好。爐主是請戲的人呢，請我們去那邊演戲的人。爐主是信神的人，而又有經濟能力支付出大戲的演出。若經濟不允許，但有号召能力，能群集大眾付出一筆可觀的錢來應付戲班和廟会的用費的人。

(問) 「廟会」、這是甚麼意思？

(答) 廟会呵，就是這麼講呵——我們時常演的就是廟会。好像這個神呵，好像觀音誕、觀音的生日十九，有一些人也做初九，有一些人就做二十九，這樣他們就會集在廟那邊呢，請我們的戲去演，這種叫做廟会啊。好像每一個廟呵，它裡面的神呢，有的是包公啦，靈水夫人啦，哪咤啦，觀音啦……廟戲就是廟会 (Tio Hui) 咯。

(問) 這個廟會、跟節日沒有關係嗎？

(答) 哪裡會沒有。有、一定有。比方說、那個村的習慣說、風俗是二十幾做、你們就會集在廟那邊、舉行大日子慶祝。

(問) 你們劇團有沒有導演？

(答) 有、有。好像我本身也有導演過、有時候我們分班。拜這個神啊、福建人說是「好兄弟」(Ba hian si) 在七月裡面呵、每一個人都要拜這些鬼啦。有些人爭先恐後的、好像拜不到、就不好了、所以每一個在請戲。有時我們的戲啊、沒有了啦、他就要我們分班啊、有時候分到三班也有可能、這樣我們去演呵、這樣每一個班一定要有一個導演啊。我們的戲本是這樣啊——第一場出誰、第二出甚麼人、甚麼人、它的情形是怎麼樣、怎麼樣。如果要演的時候、就把大家叫來、你演甚麼、你演甚麼、跟他講一遍、那麼有一個那個台數、我們福建話叫台數啦、就是「台數」(tai sau) 啦、台數就是戲本、戲本就是台數。比方說、戲本啊、要每一個言詞講出來、不過我們台數沒有。比方說、第一台這樣隔出來、出一個「山」字某某名、某某名、怎麼樣、怎麼樣、第二台出這個「序」(hi si) 某某人、某某人、你怎樣。第三台、你怎樣、出「山」或是「打架」、或者「打戰」呢、打架、出某某人、某某人、第四台……。

(問) 導演也會做戲嗎？

(答) 一定會、一定要演戲、裡面每一個角色、他都會演。

(問) 你們的導演是誰？

(答) 我們的導演裡面呢、好多個。

(問) 好多個？不是一個人？

(答) 好多個、最……老導演呢、他的名字是姓陳呢、他的名字陳老排啊。他的藝名是陳炳雲——陳炳雲呢。這樣每一個人叫他做「老排叔」……「叔」(Tock) 呵、因為他是長輩、那麼、裡面還有一個導演、就是姓林。林招治。

(問) 他是老頭兒嗎？

(答) 不是老頭兒，他是演花旦的。還有一個姓許的。好像是許中元。許導演呢。就是這樣的。

(問) 你知不知道「正字戲」啦、「西秦戲」啦、「白字戲」啦？你們福建戲、有甚麼樣的種類？

(答) 我們沒有聽過。沒有這樣的區別。演甚麼戲、盡量用甚麼像地方言語的話。

(問) 你們做劇的那頭一天、抱着一個用木頭做的小宝宝送給神、那是甚麼意思？

(答) 那個意思就是說呵——「加冠進祿」(Ka kuan tsin lok)。用木頭彫一個白白的面。他的意思就是說、先「跳」、「跳」就是表演、「跳加冠」就是說「加冠進祿」呵、這樣、年年步步高昇、希望天下太平、大家高興。請戲的人命運好、一路風順而且他們的合境平安、很有意思。這樣的話、在他的廟、人會平安、神也喜歡。送木頭的小宝宝還有一個意思、就是說、需要兒子、好像說、誰希望有孩子而他的太太沒有孩子的話、送木頭給她抱、可以祈禱、明年可以添丁了。這個很重要的、有很大的意思。

有時候十二點鐘正你得去、一點就一點、兩點開戲呵……有些沒有計較這些啦、好像要開戲的時候、你跳這個加冠給他送這個小宝宝去、有些人不要他要提早。

(問) 你們有沒有固定的戲院？

(答) 沒有固定的。

(問) 你的卡片上寫的「光明戲院」呢？

(答) 那是露天電影戲院、在巴爺禮峇 (Paya Lebar) 我們靠近那邊演。

以前的學戲的小孩子呢、很苦、處處都受到老板的管束。可是現在不同樣。現在政府呀、勞工部、他可以 complain。你好像不到十八歲、他沒有自立。老板會打他、同時欺負他、所以每三個月要驗一次、他身上如果有打傷的話、要找老板算賬、現在的演戲呵、老板不可以打孩子了。所以以前的小孩子哦、有差不多八年了。他頭腦很快呵、背景好了、好像戲班跟他有親戚的關係、他很快就可以起一個文武双全的角色。打琵琶甚麼都懂、八年就可以了。現在的孩子、二十年了、沒有弁法起一個正式的角色。這種也可以說、好像有人說管教呵、他是苦練出來的、才可以成一個正式的演員。給他演文、可以武、可以翻跟頭、甚麼

都可以。現在的孩子不可以。因為他沒有苦練，因為受到這個政府呵、勞工部的干涉，小孩子絕對不可以打，不可以勉強他做。日本有沒有好像我們這樣的地方戲啊？——（我們日本，地方戲也可以說現在沒有了。本來有，現在沒有了。在日本喜歡看地方戲的人沒有了，所以在日本地方戲消滅了。這是日本的情況。——這是這樣。不過我們星洲呵、喜歡看地方戲的人也已經很少了。很少很少。

（問）不過，那天晚上，人比較多吧。

（答）因為啊，我們這個地方呵。這個 Kampong（鄉里）呵，屬於這裡的，要拜這個神的人全部都會出來，所以才有人。現在我們演福建戲，以前呢，七点半演到十二点，現在七点半 start 差不多八点左右呵，唱歌、流行歌曲、Band boy，唱歌台上唱到九点，然後九点開始演大戲，演到十一点半。以前沒有這樣的。七点半開始演大戲到十二点，現在已經要蓋了。潮州戲已經淘汰了。少而少之了。広東班也很少了。

（問）請問，那天晚上的福清人，他們請你們做戲，這是偶然的或者是……？

（答）固定的。每一年那天晚上演完，他就跟我們合同，明年再來演，那個日子一定要來做。

（問）你們在那裡，演了幾年了？

（答）差不多演了六年了。所以差不多是固定的。好像我們比方說，人最好有的時候也有口角了。正如我們有時候跟爐主也會口角，如果有口角了，心裡有点兒不滿意，你不請我，我也不會去做，他請別人，我們也去別地方做……。好，時間到了。对不起，以後有機會我們再談。——（謝謝！你今天特地跑到這老遠的地方來，並且能夠抽出寶貴的時間）。——（完）

* 聞きとりは、蘇月華小姐と郭鳳福氏の二人の俳優について行ったが、この会見記の（答）は、すべて蘇小姐である。

星洲日報社論委員の卓南生氏に同席してもらって援助をうけ、テープ・レコーダーを利用して完璧を期した。筆録は中嶋氏による。

なお許愛華小姐は郭氏の婚約者で、写真を見ながら話題にした。（三八ページ）メモによると、団員には海南島人も東南アジア華人社会の伝統芸能

るということであつた。(三九ページ) また「台数」は、俳優の出演一覧表とでもよぶべきものである。(四一ページ)